

タ活用の実態調査を行い、養護教育におけるコンピュータ活用の現状と課題を明らかにすると同時に、情報収集や文献研究を行う。次いで、これを基に、各種障害児教育の中でコンピュータを今後どのように活用、充実させていったらよいのかの方策を探ろうとするものである。

(3) 研究の概要（第1年次）

① 研究計画

- 本研究は平成3年度から3カ年計画で行うものとし、第1年次の内容・方法を次のようにおさえた。
- コンピュータ活用に関する文献研究及び情報収集
 - 県内の養護教育におけるコンピュータ活用の実態調査
 - 所員のコンピュータ実技研修
 - 第1年次研究のまとめと次年度研究課題の検討

② まとめ

アンケート調査結果から、本県においては養護教育独自のコンピュータ活用については、盲・聾学校を代表とする一部の学校で行われているだけであり、全体的には、まだ不十分であることも併せて明確になった。

しかし、学校へのコンピュータ導入が、かなりの速度で進み、校内でのコンピュータに関する研修が多くの学校で始められている。また、コンピュータを「使ったことがある」教員が全体の約1/4を占め、「使ったことがない」教員の80%も「機会があれば使ってみたい」と答えている。これらは、コンピュータ活用に対して、養護教育担当教員がなんらかの必要性や期待を持っているのではないかと推察される。

このような現状と意識のギャップを早急に埋めていくには、次の3点が大切となる。

- 教育機器としての学習指導上の有効性や限界及び活用の視点の明確化
- コンピュータを有効に活用するための研修体制、指導体制の確立
- 養護教育に必要な周辺機器やソフトウェアの開発・工夫と流通

2 個人研究

(1) 長期研究員による研究

- 「脳損傷児Hのコミュニケーション活動の拡大を図るための事例研究」—ひらがな文字の形成・促進を通して—
福島県養護教育センター長期研究員 円谷美智子
- 「登校拒否児童生徒への指導援助の在り方」—Q男とのかかわりを通して—
福島県養護教育センター長期研究員 高橋 正美

(2) 提案研究

- 「進行性筋ジストロフィー症児の身体活動水準に関する事例考察」
福島県立郡山養護学校教諭 佐瀬 一夫

- 「作業意欲を高める切り絵学習」一切り絵の学習を通して自立性、向上心を身につける指導法一
郡山市立郡山第二中学校教諭 鈴木久仁子

第5節 教育図書・資料の収集・提供事業

1 教育図書・資料の収集・整理

(1) 教育図書の収集・整理

教育図書については、養護教育に関する専門図書の充実に努め、本年度65冊の新規購入及び寄贈の結果、蔵書数は、5,159冊となった。その種類は、心身障害児の教育関係図書が2,941冊となり、医学関係図書が343冊、心理関係図書が166冊、その他の図書が1,709冊となった。これらの図書は、「日本十進分類法」の分類基準に従い分類・配架しているので、いつでも利用できるようになっている。

また、50音検索カード及び分類記号検索カードを整え、コンピュータによる検索もできるようにして、問い合わせ等に応じられるようにした。

(2) 教育関係定期刊行物の収集・整理

教育関係定期刊行物については、県費により今年度33種類を購入した。なお、これまでの購入や寄贈などにより、1,989冊に達している。

(3) 教育資料の収集・整理

教育資料は、全国の関係機関や県内の教育機関の協力により、研究紀要・研究報告書等の収集に努めており、集まった209冊余りについて「教育資料分類基準」に従って分類した。県内の資料については、更に、学校別に分類・配架した。

2 教育図書・資料の利用

本年度の図書・資料は、養護教育センターの研修参加者を含め、県内の養護教育に携わる教職員によって利用されてきた。また、普通教育に携わる教職員や、障害児の保護者の利用もみられた。利用者は、591名で、図書・資料の貸出冊数は823冊であった。

第6節 広報・啓発事業

1 所報養護教育

(1) 編集方針

年間4回（第24号～第27号）発行

養護教育センターの各種事業内容、養護教育に関する新動向等の紹介

(2) 内容

巻頭言、特集記事、講義メモ、研究実践報告、実践紹介私のアイディア、COFFEE BREAK（随想）、用語解説等